

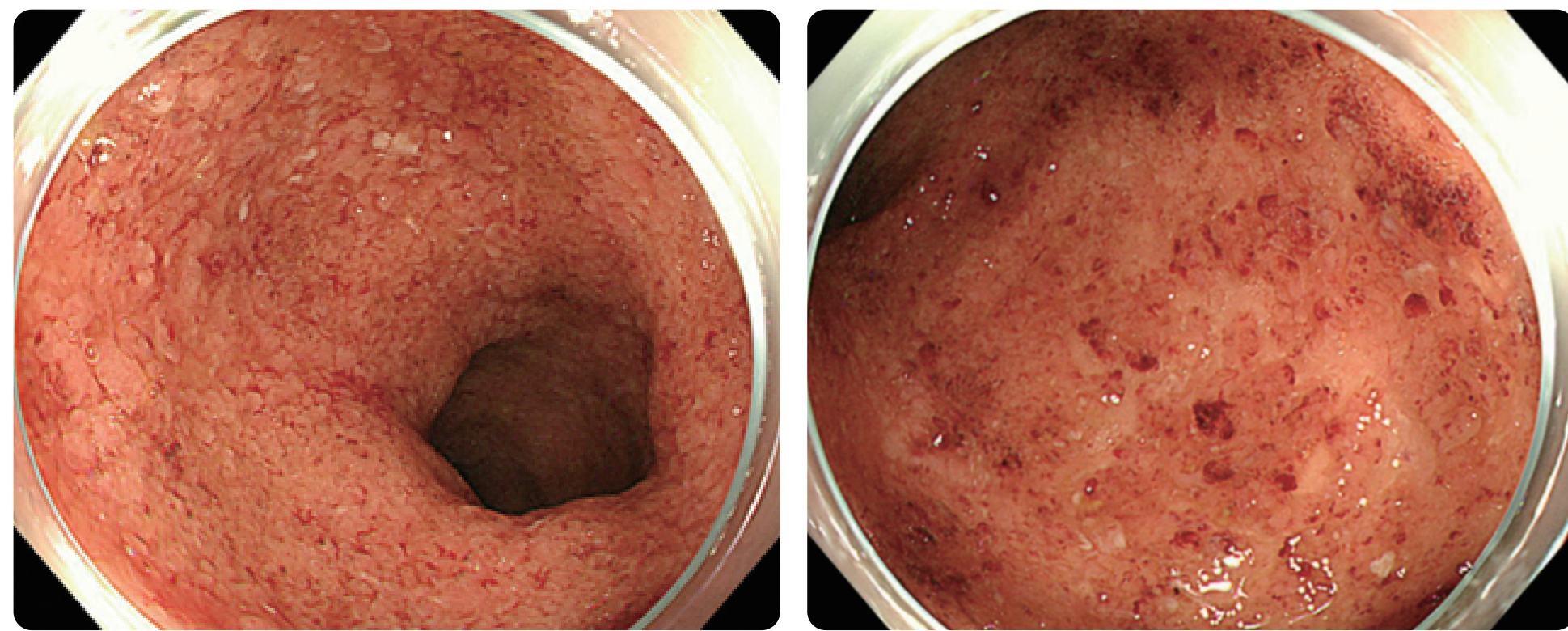
腹痛・下痢・血便を来す難病、 潰瘍性大腸炎

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜に持続的な炎症が生じ粘膜がただれる炎症性腸疾患の一つです。

発症年齢は20代から30代の青年期に生じることが多いですが、高齢者でも発症することがあります。

ここ20年で4倍と急激に増加しており珍しい病気ではありません。潰瘍性大腸炎の原因は、ストレス・腸内細菌叢の異常・自己免疫反応の異常などが言われていますが、まだはっきりとはしていません。症状としては、粘液に血が混じる粘血便・下痢・腹痛・発熱といった症状がみられます。

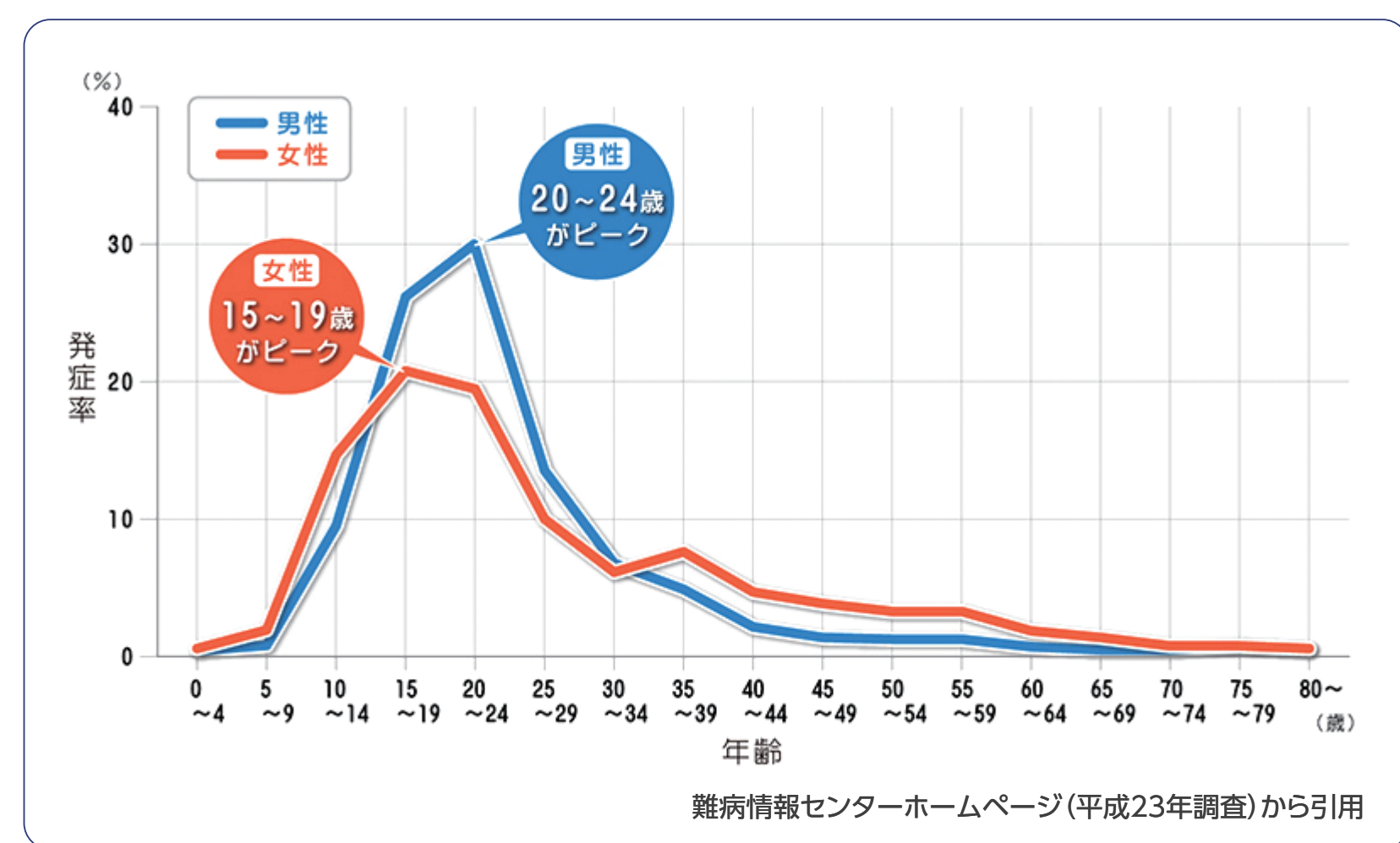
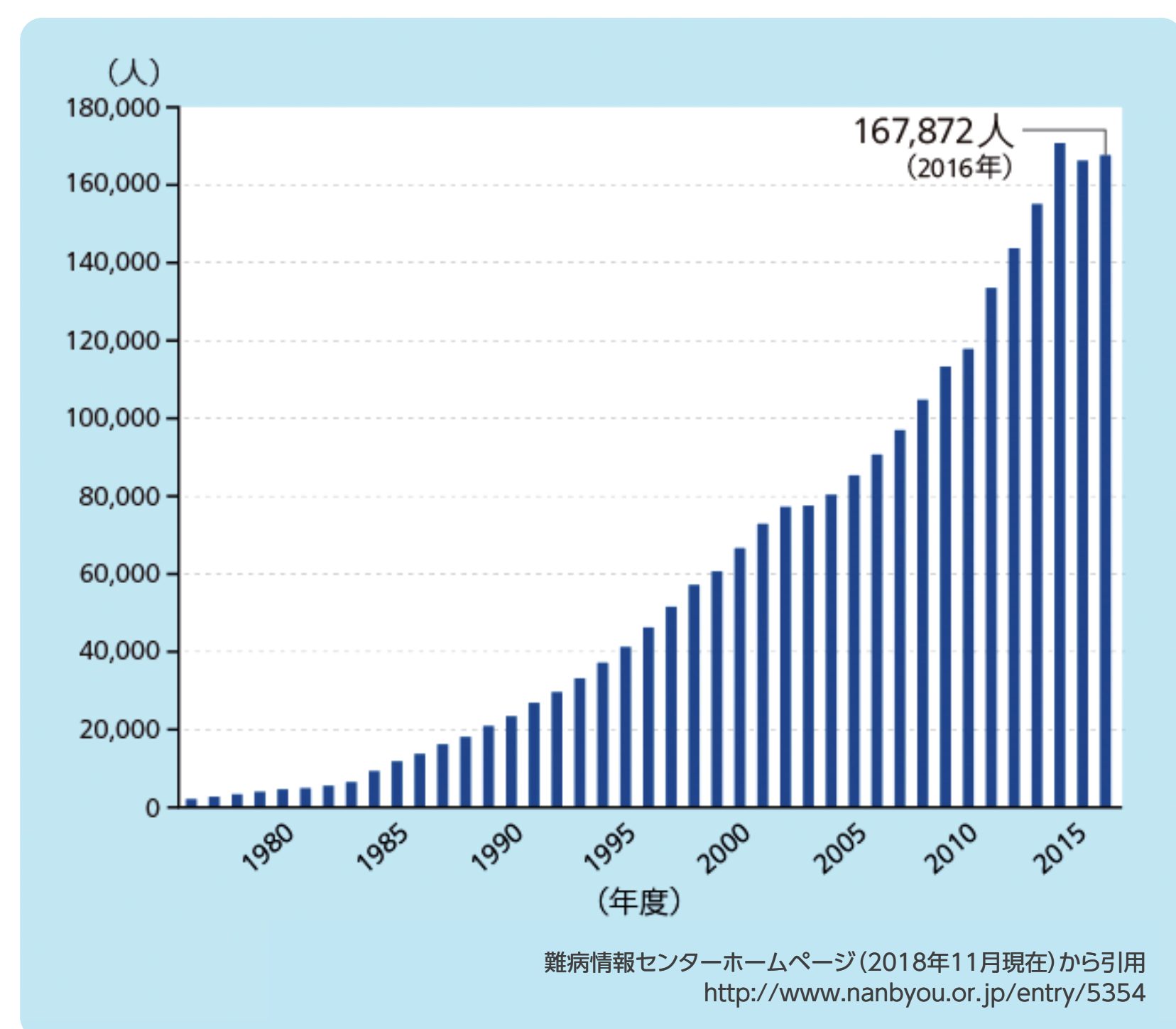
診断は、内視鏡検査で直接視ることで診断されます



潰瘍性大腸炎の内視鏡像

現在、潰瘍性大腸炎を完治する薬はありませんが、多くの場合、内科的治療で大腸の炎症を抑えることができます。

症状の改善や消失（寛解）が認められますが、再発するケースも多いので、寛解を維持するために継続した治療が大切です。



潰瘍性大腸炎は 粘膜治癒の達成が大切です

病状の確認には内視鏡検査が欠かせません。

内科的治療が奏功して症状が消失していても、大腸に炎症が残存している場合があります。

症状が無くても、大腸に炎症が持続している場合は長い経過の中で、癌ができる可能性が高くなってしまいます。

逆に、内視鏡的に粘膜治癒が得られている場合は再発のリスクが低く、より良い経過にむすびつくことが知られており、

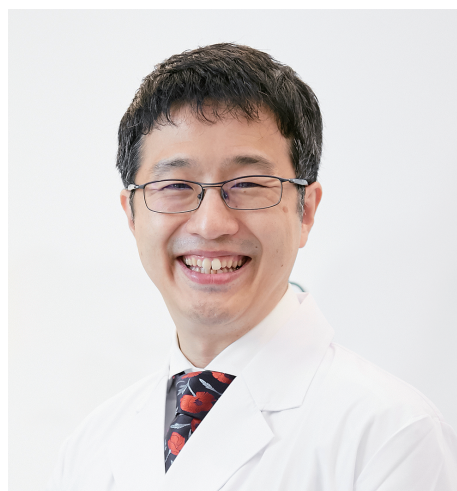
定期的に内視鏡検査をして粘膜治癒を目指すことが大切です。

また、潰瘍性大腸炎で問題となるのは長期経過による癌の発生です。潰瘍性大腸炎では大腸における発癌のリスクが高いと言われています。

以前潰瘍性大腸炎と言われ症状が良くなり検査を受けていないという方は、一度ご相談ください。

監修 浦和消化器内視鏡クリニック 院長

勝山 泰志



浦和消化器内視鏡クリニック
Urawa Gastrointestinal Endoscopy Clinic

参考文献

1. Ungaro R, Mehandru S, Allen PB, et al. Ulcerative colitis. Lancet 2017;389:1756-70.
2. Rutter, M. D., Saunders, B. P., Wilkinson, K. H., et al. (2004). Cancer surveillance in longstanding ulcerative colitis: Endoscopic appearances help predict cancer risk. Gut, 53, 1813-1816.
3. Lichtenstein GR, Rutgeerts P. Importance of mucosal healing in ulcerative colitis. Inflamm Bowel Dis; 27 July 2009